

※ペナルティーコーナー:以下PC

- 1 規則の詳細
 - ・ PCの判定があつてから、40秒以内にPCを実施しなければならない
 - 2 規則を適用する大会
 - ・ 高校生以上の11人制大会
 - 3 試合時間の管理
 - ① クォーター制
 - a. PCの判定と同時に**試合時間を停止する**
 - b. 停止と同時に40秒の計測をする
 - c. PC開始(再開)の合図として**審判員が笛を吹く**
 - d. PCが終了することなく引き続き与えられたPCであっても**試合時間を停止する**
この場合は、40秒の計測は行わない
 - e. 前後半終了間際に引続いて行われるPCにおいても40秒の計測は行う
 - ② 前後半35分ハーフ制
 - a. PCの判定があつても**試合時間は停止しない**
 - b. PCの判定と同時に40秒の計測はする
 - c. PC開始の合図として審判員が『プレイ』等の声を掛けを行い開始する
 - d. PCが終了することなく引き続き与えられたPCの場合は、40秒の計測は行わない
 - e. 前後半終了間際に引続いて行われるPCにおいても40秒の計測は行う
 - ③ 留意点
 - a. ここでいう「PCの終了」とは、シュートクロックやフライングでセンターラインに帰った選手が守備に戻る要件としての終了の意味で、PC要件のボード規制そのものの解除を示すものではない。
 - b. 時間計測等の「PCの終了」は、次の場合による。
 - ・ ボールがサークルから5m以上移動した場合
 - ・ サークルから2度出た場合
 - 4 罰則の適用
 - 4-1 40秒計測している場合
 - ① 守備側チームの反則
 - ・ チームに対する警告として、遅延行為を行った選手に対してグリーンカードで警告を与え、2分間の退場とする。
 - a. 当該選手がゴールキーパー(GK)の場合
 - ・ 通常の退場と同様
 - b. PCの守備は、5名以下で行うことができるが、守備に就くための時間を与える必要はない。
 - ② 攻撃側チームの反則
 - 守備側にフリーヒットを与え、さらに当該選手にグリーンカードで警告を与え、2分間の退場とする。
 - 4-2 40秒計測しない場合
 - ① 守備側チームの反則
 - ・ 4-1①の罰則(40秒計測をしている場合)と同様
 - ② 攻撃側チームの反則
 - ・ 守備側にフリーヒットのみを与える。
- 5 掲示方法(伝達方法)
 - a. デジタル式の時計(日本リーグ・全日本選手権大会で使用)
 - b. デジタル式の時計を用意することができない場合
 - ・ SUMPがいる場合は、SUMPが10秒前・5秒前と口頭で知らせる
 - ・ SUMPがいない場合は、ジャッジが10秒・5秒と書かれた札か目印になる旗を掲示して伝える
- 6 規則適用の留意点
 - a. 40秒が少々経過したとしても、開始する準備が整っていれば速やかに実施させる
 - b. チームによっては、PCの準備に40秒間あるとの考えを持っている場合があるので準備が整い次第、迅速に実施させる
- 7 その他
 - ・ クォーター制と35分ハーフの違いは、時間の管理が違うので注意すること